

# 序

超高齢社会の到来に伴い、いかに「老」を受け止めるかが大きな課題になっております。

誰しもが望むのは、心身共に健やかに、心豊かに人生を全うしたいということで、良き老年は人一生の課題でもあります。

その超高齢化の状況をみると、平成21年度人口動態統計によれば65歳以上の高齢者人口は過去最高といわれ、国民の約5人に1人が高齢者であり、本格的な超高齢社会になってきております。

問題は、高齢化に伴う認知症の人の増加とその対応であります。

増加の状況をみると、平成8年に11.1万人であった認知症者が、平成17年には32.1万人と約3倍になり、早急に適確な介護の必要性が生じてきています。

その介護をみると、認知症の人を理解できず、対応に問題があるということです。

それら多くの相談を受け、必要性を痛感し、21世紀の在宅福祉時代に役立つことを願って、多くの先生方にお忙しい中、ご執筆いただきました。

即、活用できる本を目指すべく、現場でご活躍中の先生方の体験を基とする事例を多く取り上げ、広範囲に役立つよう願っております。また、認知症を理解するためにも役立つよう願っています。

この本は「心のケア」、「認知症の人のための自立支援に関連するリハビリテーション」、「心をも潤す食のケア」、「認知症の人の安全、安心のためのリスクマネジメント」などを組み入れ、生活全般を視野に入れてまとめました。

殊に認知症の人の心を理解し、人間が人間らしく最後まで生きる援助を行うための心のケアは、その道の権威者でおられる長嶋紀一先生が理論と多くの現場での課題を含め記述いただき、水間正澄先生、川手信行先生には重要な自立支援のためによりよく生きるためのリハビリテーションをわかりやすく記述いただきました。

また、小林重芳先生、中舘綾子先生、田中弥生先生には、第一線で長い間ご活躍なされた経験を活用し、編集とご執筆をいただきました。

した。「食」の分野で、食の役割について単に命を紡ぐだけではなく、心をも潤すものとして召し上がっていただくための留意点等が述べられております。

また、現場で実施している認知症の人への食事の対応、楽しめる食事づくりの工夫、おやつも含め、まとめました。認知症の人が、人生最後まで、心豊かに過ごせるよう、この本が認知症の人のケアに活用され、ゆとりある介護を行える道しるべとなれば、望外の喜びです。

本書の出版にあたって、長嶋紀一先生、村山憲一先生、水間正澄先生、川手信行先生、中舘綾子先生、小林重芳先生、田中弥生先生、各大学、病院、施設、在宅介護でご活躍なされている諸先生方のご協力あればこそ、刊行に至りましたこと、感謝申し上げます。また、第一出版の加藤友昭社長、井上由香氏、山本千裕氏に御尽力いただいたこと、感謝申し上げます。

2012年3月8日

神奈川県福祉栄養開発研究所 開発部長 杉橋啓子  
(元 特別養護老人ホーム正吉苑 副苑長)